

第 1 回宿泊事業者部会で出された意見等（現状・課題等）

区分	意見等の内容	発言者	備考
宿泊客の減少傾向 団体客の減少	・女川原発関連のビジネス需要が昨年3月以降低迷し、稼働率が大幅に落ち込んでいる。 ・観光客やインバウンドは昨年並みだが、原発作業員の長期滞在減少を穴埋めできていない。	大槻委員	
	・作業員需要が減り空室が増加中。	鈴木委員	
	・過去は団体客中心だったが、人口減少で現在はピーター中心の小規模運営。	横山委員	
二次交通の不足	・課題として、目的地への二次交通（マイクロ／シャトルバス）の整備が不足。	大槻委員	
	・宿まで7km、徒歩約1.5h。送迎サービスがないと個人旅行客は敬遠しやすい。 ・二次交通整備（公共交通や送迎）の必要性が高い。	桜井委員	
	・送迎バスの確保が課題。	鈴木委員	
インバウンド対応の遅れ	・インバウンド客には英語面で大きな課題。	目黒委員	
	・宿泊施設が観光の核となり、石巻・女川・気仙沼が連携して少人数型インバウンドを狙う観光体制を模索すべき。	横山委員	
厳しい経営環境	・魚種の変化や牡蠣など海産資源の不安定化で冬期の集客が大きく落ち込んでいる。	桜井委員	
	・燃料・物価・人件費が上昇する一方、価格競争で宿泊料金を簡単に上げられない。	三河委員	
	・後継者不足に加え、女将が全業務を担い、負担が過重。	目黒委員	
	・宿泊税を機に、ライフライン等のインフラ強化に財源を活用すべき。	菊池委員	
観光関係者間の連携強化	・現在の観光資源を真剣に見直し、魅力を発掘・発信しなければ集客減少に直結。	菊池委員	
	・トレイルやスポーツツーリズムなどで、関係者全員が連携すれば相乗効果あり。	目黒委員	
	・北上町では同業者同士の情報交換の場が減少。	横山委員	
	・宿泊施設が観光の核となり、石巻・女川・気仙沼が連携して少人数型インバウンドを狙う観光体制を模索すべき。	横山委員	再掲